

2007年 大阪龍馬会イベント (3. 25)

神戸の史跡を訪ねて

V O L . 3

完 結 編



©大阪龍馬会



神戸史跡探訪コース Vol.3

開催日:3月25日(日) 午前の部のみの参加及び午後の部のみの参加可能

探訪コース PART1(午前の部)

集合時間:10:00(10時18分発の摩耶ケーブル行、22分発の摩耶ケーブル下經由三宮行バスに乗るため厳守)

集合場所:JR神戸線六甲道駅改札出たところ

交通機関:①JR六甲道→摩耶ケーブル下(神戸市バス) ②摩耶ケーブル下→星の駅(ケーブル&ロープウェイ)

※所要時間70分(頂上で昼食) 摩耶ケーブル078-861-2600

1 老中 小笠原長行ゆかりの地/八州嶺碑(摩耶山)

2 徳川道(幻の参勤交代ルート)

3 長州藩兵庫警備陣営跡/海蔵寺

移動 阪急「王子公園」→「三宮」

探訪コース PART2(午後の部)

集合時間:13:30

集合場所:阪急三宮駅 東改札口出たところ

4 勝 海舟邸跡(神戸海軍塾跡)

5 西国街道跡碑

6 神戸海軍塾(勝塾)書生寮跡

7 神戸事件発生地/三宮神社

8 河原霊社/三宮神社

9 生田の森/生田神社

10 源平合戦 梶原景時ゆかりの史跡 梶原の井/生田神社

11 源平合戦 梶原景季ゆかりの史跡 艦の梅/生田神社

12 旧兵庫県庁舎(県公館)

13 明治天皇臨幸記念碑

14 東郷平八郎寓居跡/東郷井

15 花隈城跡

16 花隈城天守閣跡/福德寺

17 初代兵庫県知事 伊藤博文寓居跡

18 明治維新開港当時関門跡

19 湊川神社 (078-371-0001)

20 楠木正成戦没之地/湊川神社

21 伊藤博文、江藤新平、大木喬任、大隈重信奉納の石灯笼/湊川神社

22 伊藤博文銅像跡/湊川神社

23 楠木正成墓/湊川神社

24 徳川光圀(水戸黄門)像/湊川神社

25 坂本龍馬訪問の地/楠木正成墓所

26 孫文像/大倉山公園

27 伊藤博文像跡台座/大倉山公園

28 大倉喜八郎別荘跡/大倉山公園

29 坂本龍馬と神戸海軍操練所記念碑/大倉山公園

30 富士山之碑/大倉山公園

移動:神戸市地下鉄「大倉山公園」→「上沢」

31 第二次長州征伐幕府軍駐屯の地/八王寺

32 柳原惣門跡

33 足利尊氏ゆかりの寺/福海寺

34 平 清盛遺愛時雨之松碑/福海寺

35 明治維新の志士ゆかりの地/柳原花街跡

36 後醍醐天皇駐蹕之處/福厳寺

八州嶺の碑

神戸市灘区大石(星の駅 掬星台)

- ▶ 老中格 小笠原長行は、文久2年(1862)12月29日、兵庫に到着し、年が明けた文久3年(1863)正月3日、大坂湾防備のために一望できる場所を目指し、役人150名を従えて摩耶山(標高702m 神戸市灘区)に登りました。
現在の摩耶山掬星台(摩耶ロープウェイ星の駅)に当たる地に立ったとき、遠方まで眺望できることにちなんでこの場所を「八州嶺」と命名しました。
八州とは摂津、和泉、河内、紀伊、播磨、淡路、阿波、讃岐を指すと推察します。
現在、摩耶山掬星台に「八州嶺」碑が建てられています。
この碑は昭和58年(1983)2月に建てられ、「八州嶺」という文字は当時の神戸市長の書によるものです。

勝 海舟もこの時小笠原長行に随行したものと思われます。

「海舟日記」によると

文久2年12月29日

『千葉(重) 太郎来る。同時、坂下(本) 龍馬子来る。京師の事を聞く。今日、図書殿(小笠原長行)、兵庫御着。夜、御旅館へ到る。時勢並びに内海警衛の愚存を申し、書を呈す。』

文久3年正月3日

『摩耶山に到り、バロメートル(気圧計の意)にて高度を試む。』

文久3年正月4日

『朝、雪峰遠山の景、奇絶。』



八州嶺の碑



摩耶山から見た神戸の町

おがさわらながゆきのひろゆき
 <小笠原長行> 文政5年(1822)5月11日 ~ 明治24年(1891)1月25日
 肥前国唐津藩主、小笠原長昌の長子。長行が2歳のとき長昌が死亡し、他藩から養子を迎えます。
 文久2年(1862)に幕府奏者番から若年寄、そして間もなく老中格となります。翌年には生麦事件を終結させるために幕府に無断で賠償金をイギリスに支払いました。
 (将軍後見職の一橋慶喜も黙認していました。)
 しかし、尊皇攘夷派からの反発を呼び、14代将軍・徳川家茂に弁明しようとしたが、大坂に滞在中、事が露見して老中職を罷免されてしまいます。
 慶応元年(1865)に赦免され再び老中となり、外交事務総裁職を兼任します。慶応2年(1866)第2次長州征討(幕長戦争)の際、小倉口の総督として指揮をとりましたが、肥後藩をはじめ諸藩を束ねることができず連敗を重ね、家茂の死を聞き、戦線をひそかに離脱します。同年11月に一時老中を罷免。15代将軍徳川慶喜にも仕え、慶応4年(1868)戊辰戦争が起こると江戸において徹底抗戦を主張し、箱館まで転戦して新政府軍に抗戦しました。箱館戦争に敗北した後は潜伏して一時行方不明となります。明治5年(1872)に東京に戻り、その後は隠棲生活を送り明治24年(1891)、70歳で死去しました。



小笠原長行